

アンケート サマリー

ダウン症のある子どもの多くの親は、出産前後の情報提供のあり方に満足していない。
～本当に知りたいのは「ダウン症のある人の暮らし」～

ヨコハマプロジェクトでは「ダウン症(※)のある赤ちゃん出産時の情報入手の現状」に関するアンケート調査を実施しました。実施概要は以下の通り。

※ 本紙では、正式名称「ダウン症候群」の略称としてダウン症を用いる。

実施概要

実施目的	妊娠・出産時のダウン症に関する情報の入手状況や、情報提供に関する親の希望を把握し、ヨコハマプロジェクトにて発行予定の情報提供用冊子の内容や配布方法の検討材料とする。
実施期間	2015年8月11日～8月22日
アンケート内容	<p>① 告知の現状</p> <p>ダウン症の可能性に関する告知のタイミング、告知者、告知内容、告知を受けた方、告知と併せて提供された情報内容について。情報内容については、「医学的情報」「社会生活に関する情報」「成長に関する情報」「支援サポート」に関する情報の4分類での設問。</p> <p>② 情報提供に対する評価</p> <p>提供された情報の参考度合、望ましい情報提供の受け方について</p> <p>③ 妊娠期間中における要望</p> <p>妊娠期間中から入手希望する情報の有無、望ましい情報の入手方法について</p>
収集方法	ウェブアンケート方式。当事者の会および親の会を通じアンケートを依頼
回答数	・回答数 344件。うち、お子様の年齢が12歳以下(注)の回答は331件。 (注)アンケートでは出産前後の情報入手状況について現状を把握する趣旨から、お子様の年齢が12歳以下を主対象とした。
調査結果(概要)	<p>多くの親が、出産前後の早い時期に、信頼できる医療機関等から、医学的な情報など同時にダウン症のある子どもの生活に役立つ情報を求めていることがわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ダウン症がある、あるいは、ダウン症の可能性があると告知を受けた親の多くは、ショックを受けると同時に、ダウン症に関する情報を欲する。しかし、告知の際に提供される情報は、医療情報が中心で、これから

	<p>育てる親や共に暮らす家族が必要としている生活に関する情報は提供されることは少ない。情報が得られず生活への不安が解消されないまま、手探りで赤ちゃんとの生活を始めている。</p> <ul style="list-style-type: none">- 出産前後の早い時期からの情報を求める声は、出産後数年以内の親において、より大きく見られる。- 多くの親は、子育てにおいて必要な情報の全体がカバーされ、また、医療機関等の信頼できる機関から、情報入手できることを期待している。
--	---

ヨコハマプロジェクトでは本アンケート実施結果に関する報告会を開催予定です。報告会開催に関する詳しい内容は後日ウェブサイトに掲載します。

本アンケート報告会に関するお問い合わせ先：

ヨコハマプロジェクト アンケート担当

info@yokohamapj.org

ヨコハマプロジェクトについて：

「ダイバーシティ」に市民が触れ、また分ち合う機会の提供を行う団体。「ふれあい事業」「情報伝達事業」「学び合い事業」の3事業について横浜を拠点に展開。2014年発足。